



ビオトープ・ニュース050

発行日 2013/02/03

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部
 事務局：徳島市山城町東傍示5-281 新弘測量設計㈱内
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

■ビオトープ・サロン 2020年徳島の未来に向けて…みんなの思いを組織の使命に！ No.7

「2020年徳島の未来に向けて（2010年3月発行）」の第7弾（シリーズ最終回）を紹介しします。（編集局）

【ビオトープ・オフセット ～自然・生物・土地・時間・文化・人間・社会、つながりの再生～】

記者：樫本幸実（会員）

これからの10年、10年後私は…想像すると怖いですねえ。ヘビー・スモーカーの私は…!? 元気で、人や自然を相手に現役でいたいですね。…「それならタバコをやめろ!」と聞こえてきそうです。

さて、本題ですが、「エコロジカル・フットプリント」ってご存知でしょうか?…「人間活動が地球環境を踏みつけた足跡」と揶揄され名づけられたようです。日本は国土面積の15.4倍（1990～91年時）つまり、国土の14.4個分は外国の陸域や水域（地球環境）を踏みつけてにしていることとなります。これでいい訳ないですよ。いつまで続けられることやら?

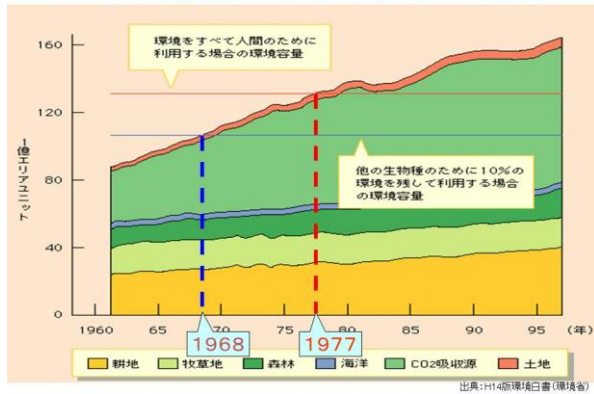
どうすればいいのでしょうか?…答えが出せません。出せないのなら身近なところからと、見渡してみれば屋外で遊ぶ子供たちの姿は無く、身近な自然はもとより、生活体験や地域の人とのふれあいは遠ざかる一方です。また、年少者の自殺や刑法犯の増加、幼児遺棄や虐待、無縁死など、社会的な問題として浮上しています。こうした中、「人間が健全に育つ環境は?」と考えると、それは「ヒトのビオトープに他ならない」という答えに辿り着きました。

生活の場に様々な「つながり」を取り戻し共存する。壊した分はオフセット（埋め合わせ）する。その中核には「ビオトープ管理士」の存在があり、政策や公共事業で見過ごされた「身近な生活環境の再生」をテーマに、まちづくりに関する提言や地域の環境保全活動の支援をしている。このような徳島の近未来を描きました。そして、私にできることはとを考えてみると、

1. 景域保全：水辺や緑地の保護と利用として、小川と里道と雑木林の保全と利活用の技術的支援。
2. 景域創出：水辺や緑地の計画と整備として、水路や路傍の改良と未利用地の整備の技術的支援。
3. 景域管理：水辺や緑地の活用と維持として、身近な自然や公園利用の運営と維持の技術的支援。

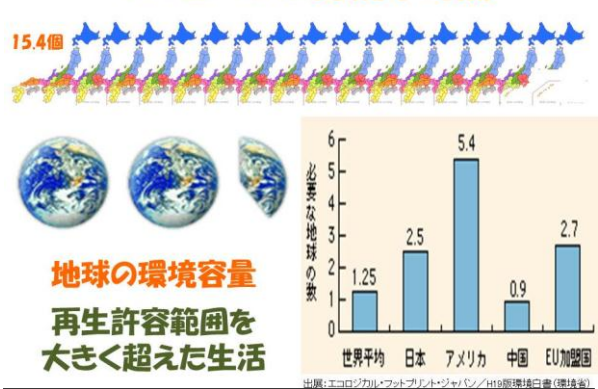
などがあげられます。10年後の徳島で、生活環境再生と自然生態系修復のために、地域住民や利用者と一緒に、連携と協働による小さな公共事業を実践していただきたいですね。（2010年3月）

限界を超えた地球(成長の限界)



↑人間活動は1970年代には環境容量を既に超過している

今の暮らしは持続不可能



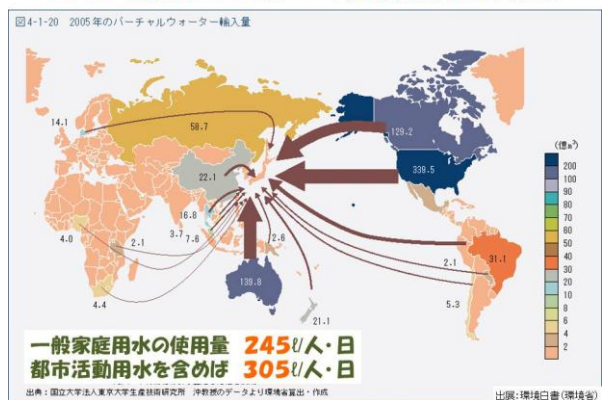
↑世界の人口全てが日本並に生活すれば地球が約2.5個必要

人口増加が温暖化を加速し新たな危機も



↑産業革命の1900年代から人口が急増し環境問題が顕在化

2005年輸入量800億m³ 年間総取水量と同程度



↑日本は水が豊かと思っいても実は食料を介して水も輸入

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【ビオトープ論の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問050：以下は、ビオトープの創出について述べたものである。誤っているのを、1～5の中から選びなさい。

1. ビオトープ創出の目的は、単に緑を増やすことにあるのではなく、生物多様性を保全することにある。完成直後の見た目のためだけなら、高木植栽は避けた方がよい。
2. ビオトープを創出する際には、その地域の現在置かれている立地条件を考慮する必要がある。例えば、かつてその場所が湿地だったからといっても、湿地を復元するのが既に難しい場合には、必ずしもそれにこだわる必要はない。
3. ビオトープを創出する際には、誘致目標となる生物種を選定し、綿密な設計を行う必要がある。そして、施工の際には、設計図を正確に再現した工事を行い、完了後も設計段階のイメージを維持することが重要である。
4. ビオトープ創出の場合、造成工事は第一段階に過ぎず、むしろその後の自然な状態の中での変化によって、多くの生物に多様な生息・生育空間を提供すると言う考えが重要である。
5. ビオトープの創出は、造成工事が完了した段階で完成型ができるわけではない。5年後、10年後を見据えるなど、長い目でその管理に関わっていくことが重要である。

■前号049の解説(1級施工部門の記述問題)

次の文のうち、なわばり行動について述べているものはどれですか。

①樹液に集まったコガネムシやアリが互いに場所取りを演じているのは、競争行動。②2匹の蝶が互いに絡み合うように飛んでいるのは、繁殖行動。③アリマキの群れにアリが集まっているのは、共生行動。④ムクドリが、夕刻、市街地の樹木に群れているのは、ねぐら入り行動。⑤ヨシ原で、オオヨシキリがさえずっているのは、なわばり行動。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■ビオトープ・サロン 書籍紹介コーナー

(編集局)



【風の中のマリア】

著者：百田尚樹／発行：講談社（第五刷発行：2009年6月9日）／A5併254頁
 ／定価：本体1,500円／文庫本発行：2011年7月15日（講談社文庫）

おなじみの“わんぱくおじさん”が、「感動した！読んでみて!？」と、わざわざ届けていただきました。主人公ハタラクバチ「マリア」の一生を描いた物語でした。

その夜、パラパラと数頁…子供向けか?…そのまま読み切ってしまった。自然界の絶妙な仕組み、生き物同士のつながり、また、ゲノムの世界を垣間見るとともに、人間(自分)はなぜ存在するのか?なぜ今ここにいるのか?…と哲学的な示唆にまで。

オオスズメバチの一生を通じて、子供は子供なりに、大人は大人なりに、人それぞれに受け取り方は異なると思いますが、生態系や生物多様性を理解するための「入り口」あるいは「気づき」として、そのまま絵本にもできそうなどともわかりやすい一冊です。

科学的な裏打ちのもとに、ドラマチックに描かれています。以下、帯書きを転載。

松田哲夫：スケールの大きな「いのち」の物語に圧倒されました。／石田衣良：風変わりだけど面白い。これは「裏山」で起きた「国盗り物語」だ。／養老孟司：こういう本を読んだらいいと私は思う。／北上次郎氏：ディテールが迫力満点！自然の厳しさと荘厳な営みの真実に胸を打たれる。／酒井順子：ハチも、カマキリも、ミノムシも、生きることはつらい。ましてや人間をや。虫達のシンプルな生き方と死に方が羨ましく思えてきた。／奥本大三郎：オオスズメバチは世界最強の蜂で、それゆえもっとも魅力ある昆虫である。その視点から見た世界の小説化…なるほど、その手があったか！／江上剛：子供たちは感動して「ハチってすごいね」と目を輝かせ、ひょっとしたら「お父さんも大変だね」と言ってくれるかもしれない。

■ビオトープ・サロン イベントのご案内 ～季節の恵み いただきまあす～ 5回シリーズ第4回

(編集局)

【あなたも、七草博士になろう!!/ビオトープ気延の里(石井町)/平成25年2月16日13:30~15:30】

春の七草は、今どこに!?...かつては、道端でも見かける身近な植物でした。象徴的な七草粥は、無病息災を祈願するもので、御節料理で疲れた胃を休め、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養素を補うという先人の知恵でもありました。農業や生活の近代化によって、草地は価値を失い無用のものになりました。そして、ある場所は住宅や道路に、ある場所は放置され、もはや身近に草地の姿を見ることは難しくなりました。こうして、草地に生息・成育する生き物は住み処を失い、姿も消えました。先人の知恵や地域の伝統も。お申し込みは、090-2828-6181 稲飯まで。

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局

【E-mail: kanv@nifty.com URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】